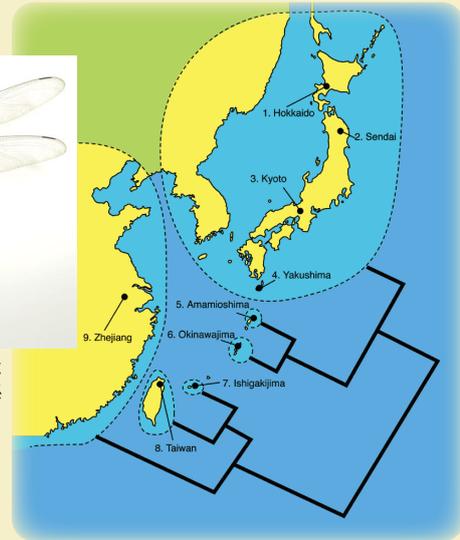




『トンボの進化と多様性』

日本のトンボは
どこからきた？

日本列島は約2000万年ほど前から形成された比較的新しい島々です。恐竜の絶滅時期よりもずっと新しいのですが、この地域の島々には大陸にはいない固有種のトンボが沢山分布しています。このトンボ達はどのように進化してきたのでしょうか。DNAの塩基配列情報を用いて調べています。

例：オニヤンマの地域
集団間の系統関係

海外でのフィールド調査

トンボは約6000種が知られていますが、まだまだ未記載種がたくさんいるようです。

これまでにボルネオ、ベトナム、韓国、台湾、ラオスなどといったアジア地域でフィールド調査を行ってきました。その結果約10種の未記載種を発見し、それらを新種記載するための準備を進めています。

新種を記載するためには、近縁な種の標本と比

較したり、形態をよく観察して記述する必要があります。時には海外の博物館へ標本を見せてもらいにいくこともあります。



新種記載には交尾器などの形態情報が欠かせない！

ラオス産サラサヤンマ属の未記載種 (*Sarasaeschna* sp.)研究者に
聞いてみました！

1) 専門は何ですか？

トンボやバッタの系統分類学が専門です。ベッコウトンボなど絶滅危惧種の遺伝的多様性も研究対象です。

2) 研究者になろうと思ったきっかけは？

大学生の頃、南西諸島の島々を巡り（放浪の旅）、島ごとに違ったトンボがいることに興味を持ちました。

3) 最近の研究活動で、最も興味深かった出来事は何ですか？

ベッコウトンボという絶滅寸前のトンボのDNAを抜け殻から抽出して調べています。数少ない生息地の一つのを調べてみると、予想以上に遺伝的多様性が高く、ほっとしました。

4) 研究者になりたい方に一言アドバイスを！

図鑑やインターネットなどで調べて満足するのではなく、実際に観察・経験するという姿勢が大事だと思います。

